

ポートフォリオレビュー 2022 参加者募集！

取手藝祭と「先端プライズ展」のタイミングに合わせて、取手校地にて「ポートフォリオレビュー」のイベントを開催いたします。藝大内外から第一線で活躍するアーティストや批評家を招き作品のポートフォリオを見せてコメントをいただきます。貴重な機会ですのでぜひ奮ってご参加ください。希望者は応募フォームに必要事項を記入の上お申し込みください。（なお、応募者多数の場合は先着順となります。）

◆日時：2022年11月26日（土） 17:30-19:00

◆場所：東京藝術大学取手校地藝大食堂

◆レビュアー：青山悟、きりとりめてる、小林正人、林卓行、西尾康之、百瀬文

◆データ提出締め切り：11月18日（金）

◆応募方法：作品の写真や解説を入れたポートフォリオ（20ページ以内）のPDFをデータで事前提出してください。（下記URLまたはQRコードより申し込みフォームに記入してください。）

https://docs.google.com/forms/d/1ZOT3mlx1pmjK-p_AL3VAFP8_PgFN9kG-jJmfChx1UDo/edit?ts=633bc96a



■同時開催

◇取手藝祭

日程：11月26日（土）・11月27日（日）要予約

事前予約フォーム：<https://toridegeisai2022.peatix.com>

◇先端プライズ展 2022ー格闘ー

日程：2022年11月14日（土）～11月27日（日）

時間：10:00～17:00

休館日：11月23日（水）

会場：東京藝術大学取手校地藝大食堂とその周辺

参加作家：東弘一郎（サロン・ド・プランタン賞）

湯田冴（卒業買上作品）

高橋宙照（平成芸術賞）

山下紗弥（宮田亮平奨学金）

岡田夏旺（平山郁夫奨学金）

菊地晴（安宅賞）

■レビュアー

青山悟 Satoru Aoyama



1973 年東京都生まれ。ロンドン・ゴールドスミスカレッジのテキスタイル学科卒業、シカゴ美術館附属美術大学で美術学修士号を取得、現在は東京を拠点に活動。工業用ミシンを用いて労働の価値を問い、刺繍というメディアの枠を拡張させる作品を発表する。近年の主な展覧会に、2019 年「Unfolding: Fabric of Our Life」(Center for Heritage Arts & Textile, 香港)、「Re construction 再構築」(練馬区立美術館、東京)など。

きりとりめぐる Kiritorimederu



1989 年鹿児島県島生まれ。デジタル写真論の視点を中心に企画、執筆を行なっている。「T3 Photo Festival Tokyo」ゲストキュレーター (2022 年)。編著書に『インスタグラムと現代視覚文化論』(BNN 新社、2018 年)。2022 年にフルタイムサラリーマンを辞め、『artscape』で月評を書き始める。『パンのパン 04 (中)』を 2022 年 8 月に刊行予定。

小林正人 Masato Kobayashi



1957 年東京都生まれ。東京藝術大学美術学部絵画科油画教授。96 年サンパウロビエンナーレ日本代表。97 年キュレーターのヤン・フォート氏に招かれ渡欧。以降ベルギーのアントワープ市を拠点に各地で現地制作を行う。2006 年帰国。主な個展に「小林正人展」(宮城県美術館、2000)、「A Son of Painting」(S.M.A.K、アントワープ、2001)、「STARRY PAINT」(テンスタコンストハーレ、スウェーデン、2004 年)。

林 卓行 Takayuki Hayashi



東京藝術大学美術学部芸術学科准教授。美術批評・現代美術研究。専門は 20 世紀後半のアメリカを中心とする現代美術研究。著書に『ウォーホル』(小学館、2006 年)ほか。2021 年に石崎尚との共訳による『彫刻の歴史 先史時代から現代まで』(アントニー・ゴムリー／マーティン・ゲイフォード著)が東京書籍より出版された。

西尾康之 Yasuyuki Nishio



1967 年東京都生まれ。彫刻家、東京芸術大学彫刻科准教授。指で粘土を押す軌跡のみで作った雌型から作品を制作する独自の手法“陰刻鋳造”による立体造形で知られる。幼少期より自己の存在性に脅迫を覚え、その克服のために過剰な痕跡の蓄積を続けている。2016 年に山本現代にてヘッドマウントディスプレイを装着して 3DCG で創られた群像を視覚的に“体験”する「REM (Rapid Eye Movement)」を発表。

百瀬文 Aya Momose



1988 年東京都生まれ、アーティスト。近年の主な個展に「I.C.A.N.S.E.E.Y.O.U」(EFAG EastFactoryArtGallery、2020 年)、主なグループ展に「国際芸術祭あいち 2022」(愛知県美術館ギャラリー、2022 年)、「フェミニズムズ / FEMINISMS」(金沢 21 世紀美術館、2021 年)など。主な作品収蔵先に、東京都現代美術館、愛知県美術館などがある。